

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2093400014		
法人名	社会福祉法人 飯綱町社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム「わが家」		
所在地	長野県上水内郡飯綱町倉井2907-1		
自己評価作成日	平成27年6月25日	評価結果市町村受理日	平成27年12月22日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市巾上13-6		
訪問調査日	平成27年9月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・利用者様が住み慣れた地域で心穏やかに暮らせるように「どんな時もこの地域で暮らす私が主人公です」という理念を常に意識しお一人お一人にあったお手伝いを行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所で培われた認知症ケアの経験を還元して短期入所、通所介護事業を積極的に取り組んでいる。また、事業所併設の訪問介護を利用する利用者もあり馴染みの関係を作りながら入所に至るケースがある。認知症になっても生まれ育ち、暮らしてきた高齢者が地域で暮らし続けられる体制を築いている。運営推進会議には毎回全利用者家族に参加を呼び掛け7~8割の家族が出席されている。区長、伍長、民生委員、協力医、行政、多数の職員も参加してサービス向上のため多岐にわたり議論が毎回されている。事業所理念を職員会議で話し合い共有し、日々の支援に具体的に実践できるよう全職員が取り組んでいる。利用者が常に主人公であるための言葉かけ、利用者から呼ばれた時の対応等支援している職員の姿勢からうかがうことが出来る。入浴は夕方から利用者全員対象に毎日行い、夕食も19時頃である。長年暮らし続けてきた家庭の暮らしを大切にしたい援助を目指している。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名(ふじ)		項目		項目	
項目		取り組みの成果 該当するものに印		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての家族と
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 家族の2/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			3. 家族の1/3くらいと
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
		2. 数日に1回程度ある			1. ほぼ毎日のように
		3. たまにある			2. 数日に1回程度
		4. ほとんどない			3. たまに
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. 大いに増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		4. ほとんどいない			3. あまり増えていない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての職員が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 職員の1/3くらいが
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての利用者が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 利用者の1/3くらいが
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
		2. 利用者の2/3くらいが			1. ほぼ全ての家族等が
		3. 利用者の1/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		4. ほとんどいない			3. 家族等の1/3くらいが
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が			4. ほとんどできていない
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
ユニット名(つがる)			
項目	取り組みの成果 該当するものに 印	項目	取り組みの成果 該当する項目に 印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の会議において理念の確認を時々行っており、共有し支援している。	職員室に施設独自の理念を掲示したり、毎月の職員会議で理念について確認し合い意識づけをしている。理念を具体的に実践につなげることが出来るよう学習会も行い、職員間の連携、コミュニケーションを取り合い、職員の都合が優先されていないか振り返りをする等して理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や会合などに誘っていただいて参加している。ボランティアの受け入れをしている。	地区主催の敬老会や防災訓練に参加している。歌、踊り、マジックショー等のボランティアの訪問がある。近所からのおすそ分けの関係がある。自治会に入会して会議に出席、職員が地区の清掃活動に参加する等して地域とのつながりを築いて来ている。	地域に出掛ける等して交流をされているが、地域、地区の方に便りの回覧等で、ご近所の方、子供たちを招く等の交流を事業所から発信される事も検討され、相互関係作りを更に進められることを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のことを知っていただくようになっている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画を立てて出席して頂いている。出された意見・要望を職員全体で共有して、その後の運営に活かすようにしている。	年6回実施。2回は行事に合わせる等して委員が事業所全体を把握出来るよう努めている。毎回多くの家族、委員の出席がある。評価、事業活動、決算報告等行い出席者からの質問や建設的な意見が出され利用者のサービス向上のために活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。空き情報や入居者の状態を町へ伝え、協力して頂くように取り組んでいる。	入居に関する相談等して協働関係を築いている。事業所連絡会に参加して事業所が課題としている事故の対応、看取りに関する取り組み等を参考にしている。介護保険改正に向けた説明会に参加して情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関、ペランダ等の施錠は時間を決め行い、会議で拘束では、と思う点について話し合い意見を出している。	拘束に関する研修会は母体である社協、事業所でそれぞれ年1回行い全職員が参加している。玄関の施錠は日中していない。外出願望のある方にはユニット間で連携して添える様になっている。サイドレール使用等に関する事でも職員で慎重に話し合い拘束しないケアに努めている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	こういった事が虐待なのか研修等で理解し、職員同士で配慮している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象者はいないが、いつでも対応できるよう研修に参加している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約する際は資料を元に十分に説明を行い理解・納得をしてもらえよう担当者は努めている。改定などにおいては会議前に資料を送付し、運営推進会議において具体的に説明し、理解を得よう努めている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様の意見を聞きながらその日の活動や食事のメニュー等決めるよう努めている。ご家族様からの意見や要望が、面会時や推進会議等であれば記録に残し、リーダーや管理者に伝え、次回の職員会議にて話し合い運営に反映するよう努めている。	毎回、運営推進会議に出席する機会があり、意見要望が出される機会がある。面会時に家族からの要望意見を聞くよう心掛けている。防災訓練に関する意見等出され反映してきている。職員、利用者の異動、防災訓練、研修会、行事等の内容が掲載された便りが発行された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善すべき点や要望などアンケート調査をし、会議にて案を作成している。 職員会議にて意見等が表明しやすい環境が整っている。	業務改善に関するアンケートを行い常勤職員会議を開き、清掃に関して改善が図られた。毎月職員会議を開いて意見、提案を聞く機会を作っている。日常的に職員からの相談は管理者が対応している。職員からの意見の表明、意見の反映に関して工夫が見られる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が常駐しているの、勤務状態を把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標に向かって社協内の研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流などの機会がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入するときは、すでに提供している事業所があれば、その事業所より情報を得ている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に、ご家族様の不安等をお聞きし、安心して利用して頂けるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご利用者様の状態に合わせ支援していく様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることはして頂きながら支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者がご家族様に利用者様の1ヶ月の様子を伝え、共にご家族と利用者様を支えていく様に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区での行事など積極的に参加出来る場所には参加し、地区の皆様との絆を大切にしながら過ごしている。	入居前に地域での生活、馴染みの関係に関して把握するよう努めている。親戚、友人近所の方の面会時にはお茶等を出して自室でゆっくり過ごせるよう配慮している。馴染の散髪店や商店での買物に職員が付添い出掛ける等して馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんと職員との関わりを、他の利用者さんが見ている現状から、ご利用者同士が気にかけて出来ないところは手伝っている場面が見受けられる。それらの関係を見守り、問題がない様に支援していく。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用された方への事後フォローを大切に、いつでも支援し相談に応じることが出来ることをお伝えしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の暮らしの中で、本人から言葉で発せられた事を大切に、本人の思いを汲み、それを把握できるか一人ひとりに目を配り、その方に合った支援をすることに努める。	思いや意向を把握した時は職員個人のノートに書き留め、申し送り時に引き継ぎをしている。買物、散歩等直ぐに支援可能な内容は事業所内で連携して実現に向けている。自宅への外泊帰省等の意向は介護計画に反映して関係者で協力して実現に向けた取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴等を記録したファイルを職員がいつでも閲覧できるようになっており、入所前の様子を知ることが出来る。 また、ご家族様より様子を伺い、支援につなげる様努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々で入居者の様子を確認し、コミュニケーションを大切に支援をする。 申し送りをし、また、記録に残し、職員全体で情報共有できるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室担当者が日々の記録を元にモニタリングし、会議で話し合いケアプランに活かしている。	介護計画に関して本人家族からの要望意見を聞き、職員で共有して話し合い介護計画の立案をしている。短期目標は目標達成のために詳細に立てられている。毎月モニタリングを実施しているが、今後、短期目標を重点にモニタリングすることを伺った。体調等の変化に伴い、現状に即した介護計画を作成して支援している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に様子を記入し、全員で共有している。 毎日申し送りを行っている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医との連絡を密にとっている。 ご家族様への不安などもお聞きしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会や防災訓練等に参加し、できる限りなじみの関係を切らないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近くの歩いて行ける距離にある医院をかかりつけ医とし、定期受診、緊急時往診と、地域医療に密着している。緊急時はその限りではない。</p>	<p>ほとんどの利用者が近所の協力医がかかりつけ医となっている。通院は職員が付添い、定期的に往診もしてる。専門医等協力医以外の通院は家族対応が原則となっている。家族に受診後の報告をしている。協力医院看護師への相談が随時出来る体制にあり、また、緊急時は町立病院との連携も取れている等、常に適切な医療を受けられるよう体制作りがされている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様の異変に気づき、報告することで、医療につなげている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、病院からの情報収集をし、早期退院を目標に、ご本人・医療機関との調整に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針やあり方については、管理者が中心となり、ご本人・ご家族に十分に説明して頂き、説明内容やご希望等に添えるようチームの一員として取り組んでいる。状態に変化があった場合は記録で残している。</p>	<p>重度化や終末期に向けての事業所の方針を入居時に説明している。協力医が運営推進委員会委員でもあり、家族含めて話し合う機会がある。体調に変化が見られた時には家族に事業所の対応状況を説明して重度化や終末期に向けた話し合いをして職員、家族、医療関係者で協力し合い支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時は慌てず対応できるよう、施設の各所に掲示されているフローチャートに従い行動できるよう、時折復唱している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災訓練等行い、連絡網で応援体制が取れる様心構えをしている。	運営推進会議で事業所として防災対策に関して話し合いを持つ、消防署の指導を仰ぎながら防火管理者が中心に防災計画を立て計画的に訓練を実施している。地区防災訓練に参加、職員による防災設備に関する研修訓練、11月家族参加の総合防災訓練の計画している。今後は地域住民の参加協力を得ての訓練も視野に入れている。	一斉メールシステム配備、管理者は非常口に緊急時職員が落ち着いて行動できるように緊急時対応マニュアルの掲示をして備える等緊急時、災害対策に対する意識は高い。今後、更にあらゆる災害を想定して備品等リスト化して備蓄品等備えられることを望みたい。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員はご利用者様の尊厳を守り、敬い、常に心がけ、プライバシー保持に努めています。	一人ひとりの尊重、プライバシー保護に関する研修会を事業所で年1回行っている。日中多くの時間をホールで過ごされているので、小まめな意向確認をして過ごしたい場所で過ごせるよう配慮する、職員が利用者に関わる話をする時の声、トイレ使用のドア等注意を払っている。気になる点は管理者が職員に注意を促す等している。利用者の尊厳やプライバシー保護に努めた取組みをしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、一つ一つ本人の意思を確認しています。意思表示が困難な方は、日々の観察の中でいち早く気付いていくよう努めています。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の理念の元、穏やかな生活が送れるよう一人一人の気持ちを大切にご利用者様に寄り添い、関わらせて頂きます。自宅にいけば穏やかにになれる方に対してその思いを大事にし職員と一緒にいる。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る物はご本人の好みや季節などを確認しながら着替えをしている。散髪は本人のなじみの店へ出かけたり、ご家族様と出かけたりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と相談をし、食べたいものを決め、足りない食材は一緒に買い物に出かけている。調理・後片付け等もできる限り利用者様が関わられるように配慮している。	ユニット毎に献立があり利用者の希望に添えるよう工夫している。畑で収穫した野菜、ご近所から頂いた野菜等で調理する時が多い。郷土食作り、盛り付け、食器拭き等無理なく職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒にの食卓に着き食事をしながらさり気ない声かけをして食事を促している。利用者の意思を大切に、和やかな食事が出来るよう努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医から制限がある方には個別に対応している。食事量、水分量も確認しながら主治医に報告をし、必要に応じて指示を頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、見守りしている。出来ない方にはお手伝いして口腔ケアを行い支援している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを知り、時間毎のトイレの声かけをし、出来る限り布パンツを使用し、失禁等がある場合は尿とりパッドを使用し、トイレでの排泄を大切に支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。失禁を少なくするために誘導時間の検討や布パンツ使用をして排泄の自立に向けての支援を実践している。夜間もユニット毎3カ所のトイレを有効に利用してトイレでの排泄を大切に支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを記録し、繊維質の多い食材の提供、ヨーグルトや牛乳、水分補給、身体を動かしたりしている。必要に応じ排便を促すお茶を提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される時は清拭、足浴をして頂く。受け入れてくれる職員に声がけて頂く。身体レベルに応じてリフト浴をしている。	毎日、夕方の時間帯に全員を対象に入浴をしている。入浴時間帯は職員勤務体制を手厚くしている。入浴拒否、体調により入浴できない方には足浴、清拭、更衣等をしている。入浴剤などを入れ楽しめるよう工夫している。洗剤などは個別に好みのもが使用できるよう管理している。身心機能低下が生じた時にはリフト浴を使用して安心安全な入浴が出来るように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴をしたり散歩をして頂く。出来ることをして頂き、身体を動かして頂く。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の連携をとり、ミスの無い様に確認をしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・掃除等、利用者様の残存機能に応じた役割を持って頂けるよう支援を心がけている。歌や軽体操等で気分転換をして頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。スーパー、薬局への買い物も日常的に出かけている。ご家族・地域の方との外出も可能な限り行っている。	近所への散歩等は車椅子の方も含めて希望に添いながら出掛け気分転換を図っている。商店への買い物も希望を聞きながら出掛けている。家族、知人等の協力を得ながら帰省、外食、墓参り等に出掛けている。春、秋には利用者の希望を募りながら事業所で外出行事として取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、財布を持ち買い物をする事が出来る。管理が難しい方へは、可能な限り一緒に買い物に行き、必要な物を選べるよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があれば電話または、手紙など出せるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、出来る限りの所に手すりがあり、歩行、トイレなどにも安心して使用して頂ける。好みに応じ、テーブル(こたつにもなる)または、ソファや和室にて過ごして頂ける。見やすいカレンダー、時計なども活用している。	玄関中央にベストポジションバーの設置があり安心して玄関の利用が出来るよう工夫がある。廊下には施設行事の写真、利用者作品が飾られている。ホールと対面式の調理室は職員と利用者が常に会話が出来て安心感がある。冬場は炬燵になるテーブルを使用している。秋らしい月見のススキ、ホウズキ等が飾られている。	日中ほとんどの方が過ごされている共用空間は窓越しにテラス、畑、果樹園、遠くの間々が連なり自然のパノラマとなり、明るく居心地の良い空間が居ながらにして作られている。今後、更に生活感のあるもの、職員と利用者で作った作品等を飾る等して家庭が感じられるような工夫をされることを期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った仲間と過ごせる場所があったり、また、一人になれ、皆さんの視界を遮るスペースがある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたもの、お気に入りのものを活かし、相談しながら居室に配置させて頂き、心地よく過ごして頂けるようにしている。	居室に多くのものが収納できる押し入れがある。衣類等は衣装ケース、ハンガー等に整然と収納されている。家族写真、カレンダーなどが飾られている。衣装ケース、位牌、椅子、テーブル等置く方は少ないが置かれている。好みの寝具がベットに置かれている。家族、職員が協力し合いながら居心地よく過ごせる居室作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの椅子は一人ひとりの状態に合わせて、機能別、または色別を用意して、安全でご自分の椅子が分かりやすくしている。洗濯物は、安全にご自身で干せる様に、高さ、位置を工夫している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の会議において理念の確認を時々行っており、共有し支援している。	職員室に施設独自の理念を掲示したり、毎月の職員会議で理念について確認し合い意識づけをしている。理念を具体的に実践につなげることが出来るよう学習会も行い、職員間の連携、コミュニケーションを取り合い、職員の都合が優先されていないか振り返りをする等して理念の実践に向け取組んでいる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や会合などに誘っていただいて参加している。ボランティアの受け入れをしている。	地区主催の敬老会や防災訓練に参加している。歌、踊り、マジックショー等のボランティアの訪問がある。近所からのおすそ分けの関係がある。自治会に入会して会議に出席、職員が地区の清掃活動に参加する等して地域とのつながりを築いて来ている。	地域に出掛ける等して交流をされているが、地域、地区の方に便りの回覧等で、ご近所の方、子供たちを招く等の交流を事業所から発信される事も検討され、相互関係作りを更に進められることを期待したい。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症のことを知っていただくようにしている。	/	/
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は年間計画を立てて出席して頂いている。出された意見・要望を職員全体で共有して、その後の運営に活かすようにしている。	年6回実施。2回は行事に合わせる等して委員が事業所全体を把握出来るよう努めている。毎回多くの家族、委員の出席がある。評価、事業活動、決算報告等行い出席者からの質問や建設的な意見が出され利用者のサービス向上のために活かされている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂いている。空き情報や入居者の状態を町へ伝え、協力して頂くように取り組んでいる。	入居に関する相談等して協働関係を築いている。事業所連絡会に参加して事業所が課題としている事故の対応、看取りに関する取組み等を参考にしている。介護保険改正に向けた説明会に参加して情報を得ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>玄関、ペランダ等の施錠は時間を決め行い、会議で拘束では、と思う点について話し合い意見を出している。</p>	<p>拘束に関する研修会は母体である社協、事業所でそれぞれ年1回行い全職員が参加している。玄関の施錠は日中していない。外出願望のある方にはユニット間で連携して添える様になっている。サイドレール使用等に関する事でも職員で慎重に話し合い拘束しないケアに努めている。</p>	
7		<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>こういった事が虐待なのか研修等で理解し、職員同士で配慮している。</p>		
8		<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在対象者はいないが、いつでも対応できるよう研修に参加している。</p>		
9		<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約する際は資料を元に十分に説明を行い理解・納得をしてもらえるよう担当者は努めている。改定などにおいては会議前に資料を送付し、運営推進会議において具体的に説明し、理解を得よう努めている。</p>		
10	(6)	<p>運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者様の意見を聞きながらその日の活動や食事のメニュー等決めるよう努めている。ご家族様からの意見や要望が、面会時や推進会議等であれば記録に残し、リーダーや管理者に伝え、次回の職員会議にて話し合い運営に反映するよう努めている。</p>	<p>毎回、運営推進会議に出席する機会があり、意見要望が出される機会がある。面会時に家族からの要望意見を聞くよう心掛けている。防災訓練に関する意見等出され反映してきている。職員、利用者の異動、防災訓練、研修会、行事等の内容が掲載された便りが発行された。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善すべき点や要望などアンケート調査をし、会議にて案を作成している。 職員会議にて意見等が表明しやすい環境が整っている。	業務改善に関するアンケートを行い常勤職員会議を開き、清掃に関して改善が図られた。毎月職員会議を開いて意見、提案を聞く機会を作っている。日常的に職員からの相談は管理者が対応している。職員からの意見の表明、意見の反映に関して工夫が見られる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	施設長が常駐しているため、勤務状況を把握している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	目標に向かって社協内の研修を行っている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交流などの機会がある。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを導入するときは、お試しの場を提供している事業所があれば、その事業所より情報を得ている。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用前に、ご家族様の不安等をお聞きし、安心して利用して頂けるようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族、ご利用者様の状態に合わせ支援していく様になっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることはして頂きながら支援している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月担当者がご家族様に利用者様の1ヶ月の様子を伝え、共にご家族と利用者様を支えていく様に努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地区での行事など積極的に参加出来る場所には参加し、地区の皆様との絆を大切にしながら過ごしている。	入居前に地域での生活、馴染みの関係に関して把握するよう努めている。親戚、友人近所の方の面会時にはお茶等を出して自室でゆっくり過ごせるよう配慮している。馴染の散髪店や商店での買物に職員が付添い出掛ける等して馴染みの関係を継続できるよう支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者さんと職員との関わりを、他の利用者さんが見ている現状から、利用者さん同士でも理解しあい、支えあっている様に見られる。それらの関係を見守り、問題がない様に支援していく。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用された方への事後フォローを大切にしてい、いつでも支援し相談に応じることが出来ることをお伝えしています。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の暮らしの中で、本人から言葉で発せられた事を大切に、本人の思いを汲み、それを把握できるか一人ひとりに目を配り、その方に合った支援をすることに努める。	思いや意向を把握した時は職員個人のノートに書き留め、申し送り時に引き継ぎをしている。買物、散歩等直ぐに支援可能な内容は事業所内で連携して実現に向けている。自宅への外泊帰省等の意向は介護計画に反映して関係者で協力して実現に向けた取り組みをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個人の生活歴等を記録したファイルを職員がいつでも閲覧できるようになっており、入所前の様子を知ることが出来る。 また、ご家族様より様子を伺い、支援につなげる様努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その時々で入居者の様子を確認し、コミュニケーションを大切に支援をする。 申し送りをし、また、記録に残し、職員全体で情報共有できるよう努めている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各居室担当者が日々の記録を元にモニタリングし、会議で話し合いケアプランに活かしている。	介護計画に関して本人家族からの要望意見を聞き、職員で共有して話し合い介護計画の立案をしている。短期目標は目標達成のために詳細に立てられている。毎月モニタリングを実施しているが、今後、短期目標を重点にモニタリングすることを伺った。体調等の変化に伴い、現状に即した介護計画を作成して支援している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に様子を記入し、全員で共有している。 毎日申し送りをしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医との連絡を密にとっている。 ご家族様への不安などもお聞きしている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	敬老会や防災訓練等に参加し、できる限りなじみの関係を切らないように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>近くの歩いて行ける距離にある医院をかかりつけ医とし、定期受診、緊急時往診と、地域医療に密着している。緊急時はその限りではない。</p>	<p>ほとんどの利用者が近所の協力医がかかりつけ医となっている。通院は職員が付添い、定期的に往診もしてる。専門医等協力医以外の通院は家族対応が原則となっている。家族に受診後の報告をしている。協力医院看護師への相談が随時出来る体制にあり、また、緊急時は町立病院との連携も取れている等、常に適切な医療を受けられるよう体制作りがされている。</p>	
31		<p>看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>利用者様の異変に気づき、報告することで、医療につなげている。</p>		
32		<p>入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際は、病院からの情報収集をし、早期退院を目標に、ご本人・医療機関との調整に努めている。</p>		
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期に向けた方針やあり方については、管理者が中心となり、ご本人・ご家族に十分に説明して頂き、説明内容やご希望等に添えるようチームの一員として取り組んでいる。状態に変化があった場合は記録で残している。</p>	<p>重度化や終末期に向けての事業所の方針を入居時に説明している。協力医が運営推進委員会委員でもあり、家族含めて話し合う機会がある。体調に変化が見られた時には家族に事業所の対応状況を説明して重度化や終末期に向けた話し合いをして職員、家族、医療関係者で協力し合い支援に取り組んでいる。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>利用者の急変や事故発生時は慌てず対応できるよう、施設の各所に掲示されているフローチャートに従い行動できるよう、時折復唱している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>定期的に防災訓練等行い、連絡網で応援体制が取れる様心構えをしている。</p>	<p>運営推進会議で事業所として防災対策に関して話し合いを持つ、消防署の指導を仰ぎながら防火管理者が中心に防災計画を立て計画的に訓練を実施している。地区防災訓練に参加、職員による防災設備に関する研修訓練、11月家族参加の総合防災訓練の計画している。今後は地域住民の参加協力を得ての訓練も視野に入れていく。</p>	<p>一斉メールシステム配備、管理者は非常口に緊急時職員が落ち着いて行動できるように緊急時対応マニュアルの掲示をして備える等緊急時、災害対策に対する意識は高い。今後、更にあらゆる災害を想定して備品等リスト化して備蓄品等備えられることを望みたい。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>職員はご利用者様の尊厳を守り、敬い、常に心がけ、プライバシー保持に努めています。</p>	<p>一人ひとりの尊重、プライバシー保護に関する研修会を事業所で年1回行っている。日中多くの時間をホールで過ごされているので、小まめな意向確認をして過ごしたい場所で過ごせるよう配慮する、職員が利用者に関わる話をする時の声、トイレ使用のドア等注意を払っている。気になる点は管理者が職員に注意を促す等している。利用者の尊厳やプライバシー保護に努めた取り組みをしている。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>日常生活の中で、一つ一つ本人の意思を確認しています。意思表示が困難な方は、日々の観察の中でいち早く気付いていくよう努めています。</p>		
38		<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>事業所の理念の元、穏やかな生活が送れるよう一人一人の気持ちを大切にご利用者様に寄り添い、関わらせて頂きます。</p>		
39		<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>着る物はご本人の好みや季節などを確認しながら着替えをしている。散髪は本人のなじみの店へ出かけたり、ご家族様と出かけたりしている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様と相談をし、食べたいものを決め、足りない食材は一緒に買い物に出かけている。調理・後片付け等もできる限り利用者様が関わられるように配慮している。	ユニット毎に献立があり利用者の希望に添えるよう工夫している。畑で収穫した野菜、ご近所から頂いた野菜等で調理する時が多い。郷土食作り、盛り付け、食器拭き等無理なく職員と一緒にしている。職員は利用者と一緒にの食卓に着き食事をしながらさりげない声かけをして食事を促している。利用者の意思を大切に、和やかな食事が出来るよう努めている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	主治医から制限がある方には個別に対応している。食事量、水分量も確認しながら主治医に報告をし、必要に応じて指示を頂いている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けし、見守りしている。出来ない方にはお手伝いして口腔ケアを行い支援している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズムを知り、時間毎のトイレの声かけをし、出来る限り布パンツを使用し、失禁等がある場合は尿とりパッドを使用し、トイレでの排泄を大切に支援している。	排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導を行っている。失禁を少なくするために誘導時間の検討や布パンツ使用をして排泄の自立に向けての支援を実践している。夜間もユニット毎3カ所のトイレを有効に利用してトイレでの排泄を大切に支援している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄リズムを記録し、繊維質の多い食材の提供、ヨーグルトや牛乳、水分補給、身体を動かしたりしている。必要に応じ排便を促すお茶を提供している。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される時は清拭、足浴をして頂く。受け入れてくれる職員に声がけて頂く。	毎日、夕方の時間帯に全員を対象に入浴をしている。入浴時間帯は職員勤務体制を手厚くしている。入浴拒否、体調により入浴できない方には足浴、清拭、更衣等をしている。入浴剤などを入れ楽しめるよう工夫している。洗剤などは個別に好みのもが使用できるよう管理している。身心機能低下が生じた時にはリフト浴を使用して安心安全な入浴が出来るように配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日光浴をしたり散歩をして頂く。 出来ることをして頂き、身体を動かして頂く。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間の連携をとり、ミスの無い様に確認している。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯・掃除等、利用者様の残存機能に応じた役割を持って頂けるよう支援を心がけている。歌や軽体操等で気分転換をして頂いている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩に出かけている。スーパー、薬局への買い物も日常的に出かけている。 ご家族・地域の方との外出も可能な限り行っている。	近所への散歩等は車椅子の方も含めて希望に添いながら出掛け気分転換を図っている。商店への買い物も希望を聞きながら出掛けている。家族、知人等の協力を得ながら帰省、外食、墓参り等に出掛けている。春、秋には利用者の希望を募りながら事業所で外出行事として取り組んでいる。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理できる方は、財布を持ち買い物をする事が出来る。管理が難しい方へは、可能な限り一緒に買い物に行き、必要な物を選ぶよう支援している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をしたりする方もいらっしゃいます。ご希望があれば電話または、手紙など出せるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物、出来る限りの所に手すりがあり、歩行、トイレなどにも安心して使用して頂ける。 好みに応じ、テーブル(こたつにもなる)または、ソファや和室にて過ごして頂ける。 見やすいカレンダー、時計なども活用している。	玄関中央にベストポジションバーの設置があり安心して玄関の利用が出来るよう工夫がある。 廊下には施設行事の写真、利用者作品が飾られている。ホールと対面式の調理室は職員と利用者が常に会話が出来て安心感がある。冬場は炬燵になるテーブルを使用している。秋らしい月見のススキ、ホウズキ等が飾られている。	日中ほとんどの方が過ごされている共用空間は窓越しにテラス、畑、果樹園、遠くの山々が連なり自然のパノラマとなり、明るく居心地の良い空間が居ながらにして作られている。今後、更に生活感のあるもの、職員と利用者で作った作品等を飾る等して家庭が感じられるような工夫をされることを期待したい。
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った仲間と過ごせる場所があったり、また、一人になれ、皆さんの視界を遮るスペースがある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の使い慣れたもの、お気に入りのものを活かし、相談しながら居室に配置させて頂き、心地よく過ごして頂けるようにしている。	居室に多くのものが収納できる押し入れがある。衣類等は衣装ケース、ハンガー等に整然と収納されている。家族写真、カレンダーなどが飾られている。衣装ケース、位牌、椅子、テーブル等置く方は少ないが置かれている。好みの寝具がベッドに置かれている。家族、職員が協力し合いながら居心地よく過ごせる居室作りをしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの椅子は一人ひとりの状態に合わせ、機能別、または色別を用意して、安全で自分の椅子が分かりやすくしている。 洗濯物は、安全にご自身で干せる様に、高さ、位置を工夫している。		

目標達成計画

作成日:平成27年10月30日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		地域とご利用様との交流が少ない。	地域や保育園の園児との交流を増やし、ご利用様の笑顔が多く見られるようにする。	保育園に出向いてわが家に来てもらえるように交渉する。 また、近所のお世話になっている方達等にお茶を飲みに来てもらう。	12ヶ月
2		災害はいつ起きるかわからないが、現在備えているものは水分のみで食料、備品がなく不安である。	災害に備えて食品、備品を準備していく。	すべての物を備えたいが、予算の事もあるのでなかなか難しいが優先的に必要なものを少しずつ購入していく。	12ヶ月
3		現在、ご利用様がいるホールはこたつ、テレビがあるのみで生活感があふれる環境ではない。	生活感あふれる環境作りをする。	現在ストーブ上の棚が整理整頓されていない状態なので整理し本棚を置いたり、人形を飾ったりする。季節の物を飾りつけたりする。	12ヶ月
4					
5					

注)項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。